



火花検査を行うようす（メタルドゥ）

量は、21879トで、前年より551ト増加した。自社工場でのリサイクル事業に注力し、取扱量を将来的には現在の2倍を目指す。新センター開設に伴い、ISO14001認証を追加取得する予定だ。

シアなど二十数カ国でビジネスを展開している。レアメタル原料は、さまざまな金属成分が混在しているため、成分分析を行い商品化していく。現在ではX線による分析が主流だが、従来から薬品を用いた化学反応や磁性の強弱、グラインダーによる火花検査も併用している。金属を分別し、委託会社でさまざまな加工処理をした後、製造メーカーなどに納入している。

## 処理選別センター新設

### 希少金属の回収拡大へ

希少金属スクラップ商社のメタルドゥ（大阪市、藤田國廣社長、☎06・6448・5151）は、近年スクラップの受け入れ量が増加しており、新センター完成後は、現行の

2nd物流センター（尼崎工場）は縮小する方針。国内でのスクラップ需要も高まりを見せており、同社の07年度の回収

今年末に「新2nd物流センター」を神戸市に建設、09年1月に本格稼働する。総工費は約23億円。

は、国内7割、海外3割となっており、リサイクル業者間との取引が50%強を占める。海外は輸出入を含め、欧・米・豪・ア

と抱負を語った。藤田社長は「環境やコンプライアンス意識を伴った企業を目指し、事業展開を図っていききたい」